

所 属 鳥取県漁業協同組合（御来屋支所）
氏 名 はしもと ゆうき
橋 本 有 喜（34 歳）
船 名 ゆうきまる
有 喜 丸 4 トン
漁業種類 刺網（アジ・サワラ・ハマチ・ヒラメ）、遊漁



～若手漁業者同士のつながりを大切に～

御来屋の橋本兄弟の弟の有喜さん。高校卒業後、すぐに漁師となったため、漁師歴は兄の喜光さんより長い。漁師さんは寡黙で近寄りがたいという印象があるが、有喜さんはとても気さくで優しい漁師さんとしては珍しいタイプ。

「日々、一番漁（地区で一番多い水揚げ）を目指して頑張っている」とのこと、「御来屋だけでなく他の港の方と協力し、新たな漁法に取り組んだり稼げる漁業を考えていきたい」と意欲的だ。

赤碕や淀江の若手漁業者同士の飲み会やイベントなどにも積極的に参加して、若手漁業者同士のつながりを大切にしている。有喜さんのような人柄だからこそでもあると思うが、どこでどんな魚が獲れているか御来屋だけでなく他の地区の漁業者からも自然と情報が集まってきているようだ。

近年、漁業を取り巻く環境は厳しくなる一方ではあるが、こういった若手漁業者同士の協力体制ができていることから、今後の鳥取の漁業に明るい希望が見えた。

～漁業主体に遊漁船業を組み合わせることで安定的な漁業経営を実践～

春頃から秋頃にかけては遊漁船業も営んでおり、「わざわざ県外の遠方から来るお客さんもいるから釣れなかった時の責任は重大」と取材中もお客さんからの電話にとっても物腰軟らかく丁寧に対応されていた。思うように水揚げを揚げれることが少なくなってきた近年、遊漁船業も重要な収益源となっているようだ。複合的に行う、橋本さんの様な漁師の形が今後の主流になっていくかもしれない。

（文責：藤原 大吾）